



『熱くなれ 稲盛和夫 魂の瞬間』

稲盛ライブラリー+講談社(著)
講談社
(2023/3)
2,090円

誰も真似できないレベルで自利利他を
実践・体現されてこられた一生涯に
触れることができます。

【感想】

稲盛和夫氏と人生や仕事を共にして、情熱の瞬間を共有した人だけが知るエピソードの数々が紹介され、心が熱くなる一冊です。

「日本電産会長 永守重信」「KDDI 社長 高橋 誠」「京都大学 iPS 細胞研究所 名誉所長 山中伸弥」「FC 今治会長、岡田武史」「京セラ元会長 伊藤謙介」「JAL 元副会長 藤田直志」など名だたる方から語られる稲盛像を知ること、稲盛氏の魅力や凄さをより一層感じることができます。

ヒアリングしたのがインタビューのプロである上阪徹氏ということもあって、臨場感溢れる物語で、その時の状況が目に見えてきて、迫力があります。

「念ずれば花開く」「意志あれば道あり」という言葉がありますが、稲盛氏は、朝起きて洗面をしている時も、夜寝る前も、「こうしたい、ああしたい」と深層心理まで思えるようになるまで、考え続け、達成していない状況が居心地が悪くなったと書かれています。

大義名分を掲げ、想い・願い、考え続け、行動し続けてきた稲盛氏の生涯に触れることができますので、ぜひ読んでみて下さい。

【以下引用】

・衝撃的な経験か、もしくは連続して打つ込んだものしか、潜在意識と顕在意識の行き来ができません。「強烈なまでの願望を心に抱く」のですが、その願望を、もっとクリアなビジョンとして目標設定し、それを達成するための具体的な手法まで考えて、繰り返し繰り返しシュミレーションをやっていきます。3ヵ月ぐらい毎日考え続けていると、あたかも、もうでき上がったみたいな感じになってきます。

・研究開発に一生懸命取り組んでいましたが、私なりの心掛けについて語ってみることにしたのでした。それが、「研究開発はマラソンだ」というものでした。「15年、20年とかかる研究ですから、ペースをよく考えて、最後までゴールを切れるように頑張っています」と。そうすると稲盛さんから思わぬ返答が戻ってきました。「僕は違う。僕はいつも全力疾走なんだ」。(山中伸弥)

・(M&Aについて)買収先の従業員が「うちの社長は朝から晩まで『働け働け』と言うが、働かせたあとは何もしてくれなかった。それに比べて今度の経営者はしっかりした経営理念を持ち、我々に働け、頑張ってくれとは言いが、その結果についても、こうしてあげるという明確な基準、方針まで立ててくれている。この社長なら今までの社長よりも、我々はもっとついていきたい」と思ってくれる。そういうものでなければならないと思います。

人生・仕事の結果＝「考え方×熱意×能力」が有名ですが、著書では、特に「熱意」が人生を切り開いていくことを、気づかせてくれます。